



平成28年6月24日

各位

会社名 株式会社 南陽
代表者名 取締役社長 武内英一郎
(コード番号：7417 福証)
問合せ先 取締役管理本部長兼
経営企画室長 篠崎 学
TEL 092-472-7331

(訂正) 「平成28年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

平成28年5月11日に公表いたしました「平成28年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の記載内容に一部訂正がありましたので、下記の通りお知らせいたします。

なお、訂正箇所には下線を付しております。

記

1. 訂正の理由

「平成28年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」の記載内容に誤りがあったことが判明したため、訂正を行うものであります。

2. 訂正の内容

(添付資料)

(1) 経営成績に関する分析

①業績

<訂正前>

(省略)

ロ 産業機器事業

産業機器事業におきましては、これまで好調に推移してきたスマートフォンの需要が飽和状態に近づくとともに、新興国経済の減速に伴う投資マインドの低下により、多くの取引先が設備投資については慎重な姿勢を維持するなど、踊り場の中で推移いたしました。このような状況の中、当社グループにおきましては、好調が続く車載用デバイスに関わる案件や省力化投資に向けた案件獲得に努めるとともに、新たな生産部品・消耗部品の開拓と拡販にも努めてまいりました。この結果、ロボット分野を始めとした省力化投資は底堅く推移したものの、スマートフォン分野については陰りが見え始めたことにより、売上高は19,216百万円(前期比1.5%減)、セグメント利益は714百万円(前期比4.8%減)となりました。

<訂正後>

(省略)

ロ 産業機器事業

産業機器事業におきましては、これまで好調に推移してきたスマートフォンの需要が飽和状態に近づくとともに、新興国経済の減速に伴う投資マインドの低下により、多くの取引先が設備投資については慎重な姿勢を維持するなど、踊り場の中で推移いたしました。このような状況の中、当社グループにおきましては、好調が続く車載用デバイスに関わる案件や省力化投資に向けた案件獲得に努めるとともに、新たな生産部品・消耗部品の開拓と拡販にも努めてまいりました。この結果、ロボット分野を始めとした省力化投資は底堅く推移したものの、スマートフォン分野については陰りが見え始めたことにより、売上高は19,216百万円(前期比1.5%減)、セグメント利益は786百万円(前期比4.9%増)となりました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

<訂正前>

(省略)

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

(省略)

当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務諸 表計上額 (注) 2
	建設機械事業	産業機器事業	砕石事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,046	19,216	440	31,702	—	31,702
セグメント間の内部 売上高又は振替高	41	14	0	56	△56	—
計	12,087	19,231	440	31,759	△56	31,702
セグメント利益	1,223	714	15	1,953	△336	1,616
セグメント資産	14,061	10,619	697	25,379	4,739	30,119
その他の項目						
減価償却費	1,541	35	43	1,619	15	1,635
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,527	2	70	1,600	102	1,703

(注) 1 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額△336百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額4,739百万円には、セグメント間取引消去△6百万円、各報告セグメントに配分していない全社資産4,745百万円が含まれております。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産であります。

(3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額102百万円は、各報告セグメントに配分していない全社の設備投資額であります。

2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

<訂正後>

(省略)

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報

(省略)

当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務諸 表計上額 (注) 2
	建設機械事業	産業機器事業	砕石事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,046	19,216	440	31,702	—	31,702
セグメント間の内部 売上高又は振替高	41	14	0	56	△56	—
計	12,087	19,231	440	31,759	△56	31,702
セグメント利益	1,223	<u>786</u>	15	<u>2,025</u>	<u>△409</u>	1,616
セグメント資産	14,061	10,619	697	25,379	4,739	30,119
その他の項目						
減価償却費	1,541	35	43	1,619	15	1,635
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,527	2	70	1,600	102	1,703

(注) 1 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額△409百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- (2) セグメント資産の調整額4,739百万円には、セグメント間取引消去△6百万円、各報告セグメントに配分していない全社資産4,745百万円が含まれております。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産であります。
- (3) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額102百万円は、各報告セグメントに配分していない全社の設備投資額であります。

- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

以上